

各校で文化祭シーズン

榴祭と学院祭を開催

秋はじめる九月月上旬、県内の高校や中学校では文化祭のシーズン。本学院でも榴ヶ岡高等学校の「榴祭」が九月五日、六日と中学高等学校の「学院祭」が九月六日、七日の両日催され、他校の生徒や父母などにぎわった。

今年で三十五回目を迎えた榴祭は、「榴・榴・榴」3つでギューンツてやつてメキツてやつてソイヤ祭をテーマに、生徒たちの日頃の活動成果の発表や趣向を凝らした催しが繰り広げられた。初日の校内発表では、榴ヶ岡高校卒業生で宮城県産業経済部農村基盤計画課の郷古雅春氏(昭和53年卒)を招いて講演会が行われ、同氏の話に在校生らは熱心に聞き入っていた。続く翌日から一般公開では各クラスや文化部、運動部毎に展示や出店「写真」が軒を連ねて呼び込みが盛んに行われ、二日間にわたった榴祭は盛況のうちに幕を閉じた。

一方、四十四回目となる中学高等学校の学院祭は、予定の日程と内容を一部変更して行われたが、父母や他校の生徒などが訪れ、各催しが繰り広げられた。初日は中学弁論大会をはじめ、学内で展示発表がなされ、午後の一般公開では吹奏楽部(写真)・音楽部の発表や昨年に続いて生徒会企画のNGO(民間非営利団体)代表による講演が行われた。また公開イベント、礼拝堂正面付近にはバザーや出店が軒を連ね活況を呈した。



「お好み」の文字がプリントされたTシャツを着た学生たちが、お祭りを楽しんでいる様子。



吹奏楽部の演奏風景。楽器を演奏する学生たちの姿が写っている。

法科大学院適性試験を土樋キャンパスで実施

八月三十一日、来春開校予定の法科大学院の受験者を対象とした「平成十五年法科大学院適性試験」(大学入試センター主催)が本学土樋キャンパスで行われた。写真。東北地区では東北学院大学と東北大学の会場で行われ、本学では二百六十一人が受験し、第一部「読解・分析力」、第二部「読解・表現力」の試験に挑んだ。同試験は、法科大学院で期待される

八月三十一日、来春開校予定の法科大学院の受験者を対象とした「平成十五年法科大学院適性試験」(大学入試センター主催)が本学土樋キャンパスで行われた。写真。東北地区では東北学院大学と東北大学の会場で行われ、本学では二百六十一人が受験し、第一部「読解・分析力」、第二部「読解・表現力」の試験に挑んだ。同試験は、法科大学院で期待される



法科大学院の授業風景。学生たちが机に向かって授業を受けている。

元理事・副学長・法学部長 斎藤秀夫先生逝去

藤秀夫先生が、九月六日に逝去された。九十四歳。



斎藤先生は、昭和八年東北大学法文学部法律学科卒、同八年同大学講師、助教を経て同二十四年に法文学部教授となり、同二十八年同大学法学部長な

らびに大学院法文学部研究科科長などを歴任し、広く法界界の重鎮を占められた。同四十八年本学に法学部教授ならびに法学部長として迎えられ、同五十六年から副学長(学務担当)に就任、平成十二年三月まで理事としても尽力された。法学博士、東北大学名誉

教授で、昭和五十六年に勲二等旭日重光章を受章。先生の葬儀は、九月十日に仙台市内の斎苑(青葉区)で執り行われ、本学関係者や教員など多数が参列した。遺族 仙台市青葉区南光台南二丁目三一九 斎藤 恒夫様

元法学部教授の加藤永一先生が、八月二十一日逝去された。七十七歳。加藤先生は、昭和二十五年東北大学法学部卒、同二十八年同大学講師、同三十九年助教、同四十四年教授、平成元年に東北学院大学法学部教授に迎えられ、同六年定年退職後も嘱託教授を務めた。遺族 仙台市青葉区旭ヶ丘三丁目三二一六 加藤 裕子様

元法学部教授の加藤永一先生が、八月二十一日逝去された。七十七歳。加藤先生は、昭和二十五年東北大学法学部卒、同二十八年同大学講師、同三十九年助教、同四十四年教授、平成元年に東北学院大学法学部教授に迎えられ、同六年定年退職後も嘱託教授を務めた。遺族 仙台市青葉区旭ヶ丘三丁目三二一六 加藤 裕子様

元法学部教授の加藤永一先生が、八月二十一日逝去された。七十七歳。加藤先生は、昭和二十五年東北大学法学部卒、同二十八年同大学講師、同三十九年助教、同四十四年教授、平成元年に東北学院大学法学部教授に迎えられ、同六年定年退職後も嘱託教授を務めた。遺族 仙台市青葉区旭ヶ丘三丁目三二一六 加藤 裕子様

元法学部教授の加藤永一先生が、八月二十一日逝去された。七十七歳。加藤先生は、昭和二十五年東北大学法学部卒、同二十八年同大学講師、同三十九年助教、同四十四年教授、平成元年に東北学院大学法学部教授に迎えられ、同六年定年退職後も嘱託教授を務めた。遺族 仙台市青葉区旭ヶ丘三丁目三二一六 加藤 裕子様

十 聖書のことば

「安息日を心に留め、これを聖別せよ」(出エジプト記二十章八、十一節)

中断としての礼拝

キリスト教の礼拝を、それ以外の時間の中断として説明したのは、一九世紀下、イギリス最大の神学者シュライエルマッハーです。まさにその通りではないでしょうか。私たちの太学も毎日十時から三十分授業や仕事を中断して礼拝を捧げています。一般の教会の日曜日の朝の礼拝も同様です。週日の働く生活、あるいは能動的な生活を中断して、われわれの働きを止めて、神の前に徹底して受動的な姿勢をとりつ立つ、それが教会の礼拝です。じつさい日曜日(こと、七日)に、仕事を休んで礼拝をするという時間のサイクルは聖書から来たもので、すなわち、七日に一回休むという恩恵にみんながあずかっています。旧約聖書

会にもどんなに大切であっても、絶対のものではない、それ以上のものがあるということ。働く生活、学ぶ生活、教える生活、いろんな生活があります。面白くてたまらない人もいれば、嫌になつていない人もいます。どちらにしても、絶対ではない、振り回されたり縛られたりしない、それに隷属しない、つまり仕事や趣味が神ではない。そうではなくて、私たちがその日常生活を中断して今その前に立っている方こそ、私

会にもどんなに大切であっても、絶対のものではない、それ以上のものがあるということ。働く生活、学ぶ生活、教える生活、いろんな生活があります。面白くてたまらない人もいれば、嫌になつていない人もいます。どちらにしても、絶対ではない、振り回されたり縛られたりしない、それに隷属しない、つまり仕事や趣味が神ではない。そうではなくて、私たちがその日常生活を中断して今その前に立っている方こそ、私

会にもどんなに大切であっても、絶対のものではない、それ以上のものがあるということ。働く生活、学ぶ生活、教える生活、いろんな生活があります。面白くてたまらない人もいれば、嫌になつていない人もいます。どちらにしても、絶対ではない、振り回されたり縛られたりしない、それに隷属しない、つまり仕事や趣味が神ではない。そうではなくて、私たちがその日常生活を中断して今その前に立っている方こそ、私

会にもどんなに大切であっても、絶対のものではない、それ以上のものがあるということ。働く生活、学ぶ生活、教える生活、いろんな生活があります。面白くてたまらない人もいれば、嫌になつていない人もいます。どちらにしても、絶対ではない、振り回されたり縛られたりしない、それに隷属しない、つまり仕事や趣味が神ではない。そうではなくて、私たちがその日常生活を中断して今その前に立っている方こそ、私

会にもどんなに大切であっても、絶対のものではない、それ以上のものがあるということ。働く生活、学ぶ生活、教える生活、いろんな生活があります。面白くてたまらない人もいれば、嫌になつていない人もいます。どちらにしても、絶対ではない、振り回されたり縛られたりしない、それに隷属しない、つまり仕事や趣味が神ではない。そうではなくて、私たちがその日常生活を中断して今その前に立っている方こそ、私

会にもどんなに大切であっても、絶対のものではない、それ以上のものがあるということ。働く生活、学ぶ生活、教える生活、いろんな生活があります。面白くてたまらない人もいれば、嫌になつていない人もいます。どちらにしても、絶対ではない、振り回されたり縛られたりしない、それに隷属しない、つまり仕事や趣味が神ではない。そうではなくて、私たちがその日常生活を中断して今その前に立っている方こそ、私

会にもどんなに大切であっても、絶対のものではない、それ以上のものがあるということ。働く生活、学ぶ生活、教える生活、いろんな生活があります。面白くてたまらない人もいれば、嫌になつていない人もいます。どちらにしても、絶対ではない、振り回されたり縛られたりしない、それに隷属しない、つまり仕事や趣味が神ではない。そうではなくて、私たちがその日常生活を中断して今その前に立っている方こそ、私

伊澤先生は、昭和五十七年東京芸術大学音楽部器楽科卒、同五十九年同大学院音楽研究科オルガン専攻卒、同年四月に東北学院大学教養部助手と

伊澤先生は、昭和五十七年東京芸術大学音楽部器楽科卒、同五十九年同大学院音楽研究科オルガン専攻卒、同年四月に東北学院大学教養部助手と

伊澤先生は、昭和五十七年東京芸術大学音楽部器楽科卒、同五十九年同大学院音楽研究科オルガン専攻卒、同年四月に東北学院大学教養部助手と

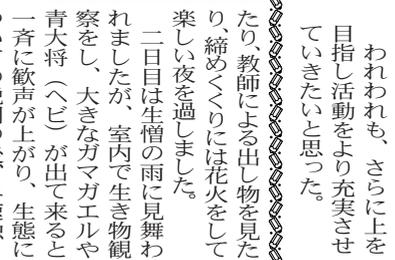
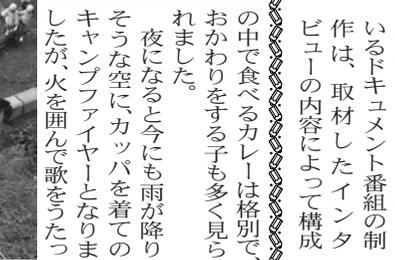
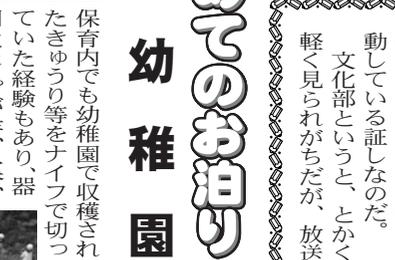
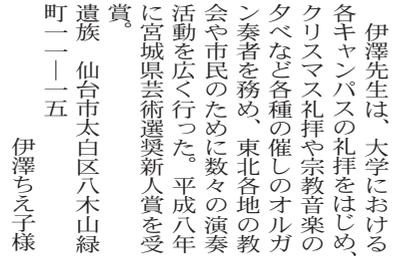
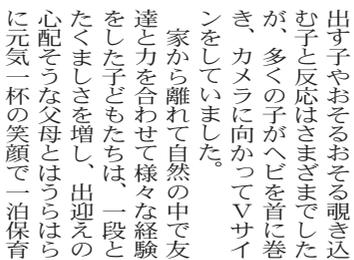
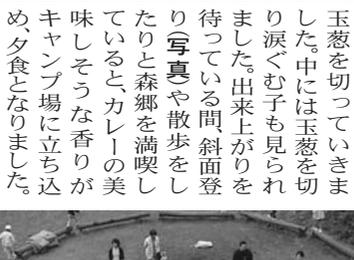
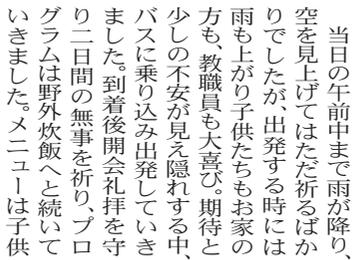
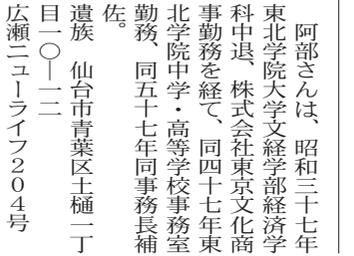
伊澤先生は、昭和五十七年東京芸術大学音楽部器楽科卒、同五十九年同大学院音楽研究科オルガン専攻卒、同年四月に東北学院大学教養部助手と

伊澤先生は、昭和五十七年東京芸術大学音楽部器楽科卒、同五十九年同大学院音楽研究科オルガン専攻卒、同年四月に東北学院大学教養部助手と

伊澤先生は、昭和五十七年東京芸術大学音楽部器楽科卒、同五十九年同大学院音楽研究科オルガン専攻卒、同年四月に東北学院大学教養部助手と

阿部信行氏逝去

阿部信行氏は、昭和三十七年東北学院大学文経学部経済学科中退、株式会社東京文化商事勤務を経て、同四十七年東北学院中学・高等学校事務室勤務、同五十七年同事務室補佐。遺族 仙台市青葉区土樋一丁目一〇一 阿部 洋子様



幼稚園

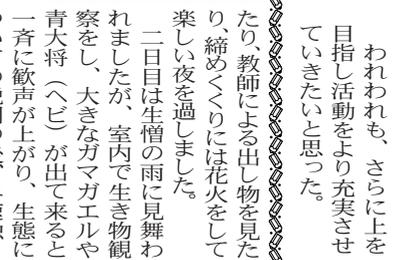
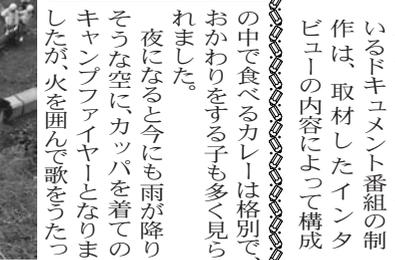
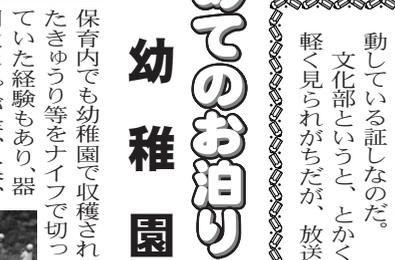
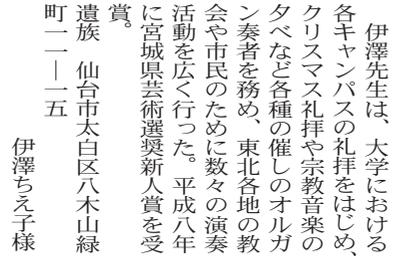
七月十八日、十九日の両日、利府町のキリスト教森郷キヤンプ場にて年長児を対象とした一泊保育が行われました。当日の午前中まで雨が降り、空を見上げてはただ祈るばかりでしたが、出発する時には雨も上がり子供たちもお家の方も、教職員も大喜び。期待と少しの不安が見え隠れしている中、バスに乗り込み出発していきま

七月十八日、十九日の両日、利府町のキリスト教森郷キヤンプ場にて年長児を対象とした一泊保育が行われました。当日の午前中まで雨が降り、空を見上げてはただ祈るばかりでしたが、出発する時には雨も上がり子供たちもお家の方も、教職員も大喜び。期待と少しの不安が見え隠れしている中、バスに乗り込み出発していきま

七月十八日、十九日の両日、利府町のキリスト教森郷キヤンプ場にて年長児を対象とした一泊保育が行われました。当日の午前中まで雨が降り、空を見上げてはただ祈るばかりでしたが、出発する時には雨も上がり子供たちもお家の方も、教職員も大喜び。期待と少しの不安が見え隠れしている中、バスに乗り込み出発していきま

七月十八日、十九日の両日、利府町のキリスト教森郷キヤンプ場にて年長児を対象とした一泊保育が行われました。当日の午前中まで雨が降り、空を見上げてはただ祈るばかりでしたが、出発する時には雨も上がり子供たちもお家の方も、教職員も大喜び。期待と少しの不安が見え隠れしている中、バスに乗り込み出発していきま

七月十八日、十九日の両日、利府町のキリスト教森郷キヤンプ場にて年長児を対象とした一泊保育が行われました。当日の午前中まで雨が降り、空を見上げてはただ祈るばかりでしたが、出発する時には雨も上がり子供たちもお家の方も、教職員も大喜び。期待と少しの不安が見え隠れしている中、バスに乗り込み出発していきま



元法学部教授 加藤永一氏逝去

元法学部教授の加藤永一先生が、八月二十一日逝去された。七十七歳。加藤先生は、昭和二十五年東北大学法学部卒、同二十八年同大学講師、同三十九年助教、同四十四年教授、平成元年に東北学院大学法学部教授に迎えられ、同六年定年退職後も嘱託教授を務めた。遺族 仙台市青葉区旭ヶ丘三丁目三二一六 加藤 裕子様

シリーズ 中・高

毎年七月下旬に東京のNHKホールを主会場にしてNHK杯全国高校放送コンテスト全国大会が行なわれる。「放送部の甲子園」といわれる大会である。われわれ東北学院榴ヶ岡高校放送部は今年も宮城県代表としてこの大会に参加することが出来た。

毎年七月下旬に東京のNHKホールを主会場にしてNHK杯全国高校放送コンテスト全国大会が行なわれる。「放送部の甲子園」といわれる大会である。われわれ東北学院榴ヶ岡高校放送部は今年も宮城県代表としてこの大会に参加することが出来た。

毎年七月下旬に東京のNHKホールを主会場にしてNHK杯全国高校放送コンテスト全国大会が行なわれる。「放送部の甲子園」といわれる大会である。われわれ東北学院榴ヶ岡高校放送部は今年も宮城県代表としてこの大会に参加することが出来た。

毎年七月下旬に東京のNHKホールを主会場にしてNHK杯全国高校放送コンテスト全国大会が行なわれる。「放送部の甲子園」といわれる大会である。われわれ東北学院榴ヶ岡高校放送部は今年も宮城県代表としてこの大会に参加することが出来た。

毎年七月下旬に東京のNHKホールを主会場にしてNHK杯全国高校放送コンテスト全国大会が行なわれる。「放送部の甲子園」といわれる大会である。われわれ東北学院榴ヶ岡高校放送部は今年も宮城県代表としてこの大会に参加することが出来た。

全国大会にて

榴ヶ岡高等学校教諭 細越 康伸

部は活動は結構たいへんである。われわれの活動も特にNHKのコンテストの時期は定期考査と期間が重なると、その直前はものすごく忙しいことになる。番組づくりもこの時期が勝負である。毎年のことながら、アナウンスや朗読など全国大会で披露されるパフォーマンスのレベルはとて高く、出品される番組も面白いものばかりである。決勝ともなるとプロと比べても遜色ない作品がずらりと並ぶ。

そんな大会の内容もさることながら、一番印象的だったのは、会場審査の結果に一喜一憂する高校生たちの様子である。その笑顔も涙もみんな一生懸命活動している証なのだ。文化部という、となく軽く見られがちだが、放送

われわれも、さらに上を目指し活動を充実させていきたいと思った。

